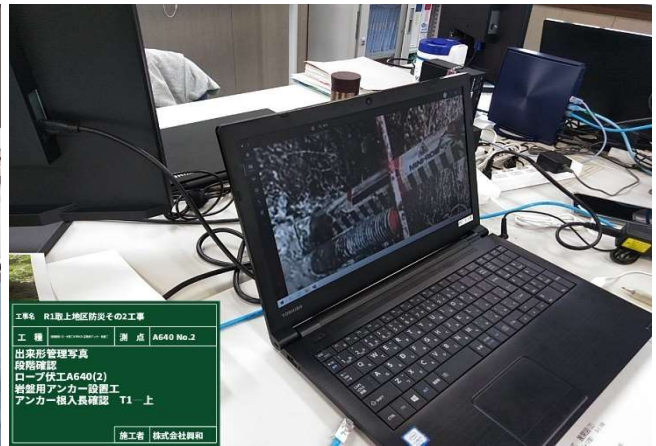


1	表題(課題)名	法面工における段階確認方法の工夫	
2	工事(業務)名	R1取上地区防災その2工事	
3	受注者名	株式会社 興和	
4	工期	令和2年4月1日～令和3年11月30日	
5	担当技術者(立場)名	現場代理人	(おおはし まさかず) 大橋 正和
6	担当主任監督(調査)員	水原維持出張所長	
7	課題区分名	⑤施工管理	
8	工事(業務)概要	主に取上洞門上部にて、落石対策工を施工した。	
9	【施工における 課題・問題点 等】		
	<p>法面工の施工箇所は、急崖な箇所が多く、段階確認においては確認できる箇所が限定されてしまったり、確認が困難なため机上確認してもらう事が多かった。</p> <p>これについて、遠隔臨場を利用することにより解決できないものかと試みたが、斜面にぶら下がったの撮影では、撮影個所を自由に移動できる平地と比較すると画角に限界があり、対象物(箇所)の全体像の把握が難しいという課題に直面した。</p> <p>法面工における遠隔臨場の弱点となるこの状況を、打破する何らかの方法を見出す必要があった。</p>		
10	【実施内容】		
	<p>いかなる場合においても、撮影者は斜面にぶら下がった状態である事が大前提であり、この条件下で実施する術を検討した結果、現場に臨場していただき、斜面の全体像及び測定箇所の位置関係を把握した上で、詳細についてWEBを使用して確認する「臨場+WEB確認」の方法を提案し、実施した。</p> <p>なお実施工種は落石防止網工で、施工箇所は山中にあり、工事用モノレールにて対象箇所まで臨場していただいた上で、モノレール上でのWEB確認であった。</p>		
11	【実施結果】		
	<p>単純に遠隔臨場を行った場合と比べて、以下のような好評を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対象物の全体像が把握できて良い。</li> <li>○対象物のどの箇所において測定が行われているのか把握できて良い。</li> <li>○対象が把握できている分、WEBの映像についての理解度が高まる。</li> </ul> <p>全体像を映せる定点カメラ、検測状況を映すカメラ、詳細(接写)用のカメラ等、通信機能を持ったカメラの台数を増やすことで、完全な遠隔臨場を実現できる可能性もあるが、機材の確保や自然条件(風雨)への対応等、克服すべき点が多いことから、今回実施した「臨場+WEB確認」も、遠隔臨場の一つの在り方なのではないかと考える。</p>		

(様式—2)

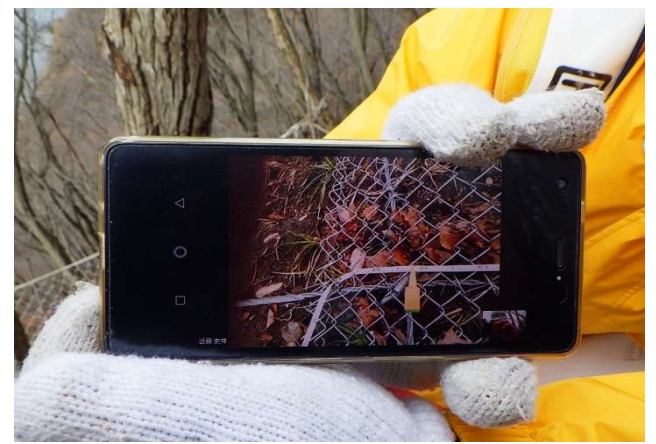
【実施内容等】

○ PCによるWEB確認状況



接写の画質については問題ないが、画角が狭いため対象は1面では映し出せず、断片的な確認になってしまう。また対象の位置関係が把握しにくい。

○ 現場臨場 + WEB確認状況



臨場していただくことで、全体像・測定箇所の位置関係が容易に把握できる。また接写については携帯のWEBで十分確認できる。